

「考③ ～修学旅行記・初日ホテル・京友禅染体験～」

校長 江口 満



【前号からの続き】B「間もなく奈良公園に到着です。そろそろ鹿が見えてくるはずですよ。」「あ、右側の木陰で休んでいます。」S「あ、鹿だ！」生徒たちのボルテージが最高潮に達した。日常生活の中に鹿が自由に闊歩している。そこには、人と鹿の共存の空間があった。北九州市では、考えられない世界だ。北九州市で、もし登校途中に鹿に出会ったなら、もしグランドに鹿が迷い込んできたなら、一大事件となるはずだ。

そう言えばバスガイドさんから、奈良公園の鹿について次のような話を聞いたことがある。

『早起きは、三文の徳』ということわざを知っていますか。早起したら、今日は、いいことあるよ！と思っていますせんか。実は、このことわざは、三文得するのという意味ではなく、早起きすれば、三文、損しないという意味があるのです。そしてこれは、奈良が起源になっています。』

「奈良の鹿にまつわるお話です。昔、奈良の鹿は神様の使いとして、とても大事に扱われていました。粗末に扱ったり、殺した者には罰をもうけたのです。ある朝、家の玄関先で鹿が行き倒れていました。その家の主人が鹿を殺したのではないかと疑われ、罰金として三文を徴収されたそうです。これを機に、早く起きて鹿が倒れていないか確かめる習慣がひろまったそうです。早く起きないと、三文損するぞという起源



となったのですね。ところがいろいろな説もあって、家の前の鹿の死骸を、別の家へ運び、知らずと押しつけられたその家の主人が罰せられたというのもあります。だから早起きして鹿の死骸を見つけた主人は、三文得をしたのですね。」

奈良公園の駐車場でバスを降りた生徒たちは、もう「鹿せんべい」のことしか考えていない。自由時間は、東大寺大仏を見学した後だ。まず奈良公園のお決まりである鹿と一緒に学級写真を撮影する場所に向かおうとしたその時である。カメラマンのスタジオえぐちさんが駆け寄ってきて、「学級写真を撮影する場所を変更します。鹿が寄ってこないそうです。」「？…」学級写真を撮影する定番の位置には、いつもお腹を空かした鹿たちが待ち構えて



いる。生徒たちが写真隊形で並び終わったところで、係の方が鹿せんべいをまくと、そのエサ欲しさに生徒の前に集まってきて、写真の中にうまい具合に収まってくれるのだ。だから奈良公園での学級写真と鹿は切っても切れない関係なのだ。

ところがその鹿たちが集まろうとしない。あんなにたくさん鹿がいるのに…。「どうやらお腹いっぱいいらしいです。」とのこと。こういうことか。時刻は夕刻。観光客が大挙して奈良公園に押し寄せてきている。奈良公園といえば鹿。観光客は皆、「鹿せんべい」を購入する。それを与える。朝から与え続ける。いくら大食漢の鹿といえども、朝から食べ続けているとお腹いっぱいになるらしい。それでも観光客は途切れることなく押し寄せる。「鹿せんべい」買う。与える。(裏面へ)



【上】修学旅行初日、「奈良パークホテル」に到着。「先生から聞いてはいたが、想像以上のご飯の量に圧倒された。死ぬ気で食べたが完食することができなかった。また夕食には、以前校長先生が終業式で紹介していた「チーズの蘇」が出た。食べたことのない独特の味で、私の口にはあまり合わなかった。だけど大人になったときに再挑戦してみたいな、と思った。満腹で倒れそうになりながら部屋に戻った。」(3年4組Tさん作文より)【左】「蘇」を堪能する三年生

だから写真撮影の場所に、エサにつられた鹿が一匹もいないのである。急遽、撮影場所を変更。こんなこともあるだろうということでカメラマンさんが事前に決めていた場所で撮影。鹿が生徒たちの前にはいないが、背景に大仏殿が写りこみ、奈良公園ならではの学級写真になったのである。【次号に続く】



「多くの人に支えられた修学旅行」 3年1組 Tさん

【上】初日ホテルでのパフォーマンス
【左】修学旅行二日目、嵐山「竹林の小径」にて【下】二日目
京友禅染体験学習の様子

二泊三日の修学旅行。私は実行委員として参加し、一ヶ月以上前からスローガン決めやしおり作成などの準備を続けてきた。しかし、修学旅行の直前に足首を痛めて病院に。あっという間に両脇に松葉杖を抱えることになった。病院から帰る車の中では、様々なことが頭に浮かんできた。「なんでこのタイミングで…。」「周りに迷惑が…。」「そもそもこんな状態で行くことができるのか…。」楽しみだった修学旅行が、一気に不安で塗り替えられた。だが周囲のサポートもあってか、足首は想像よりも速いペースで回復し、修学旅行二日前には松葉杖を取ることができた。

そして当日、不安は完全に消えた訳ではなかったが、それでもしみじみ気持ちのほうは何倍も大きかった。台風の影響で心配していた天候にも恵まれ、私達は出発した。バスで小倉駅に向かい、そこから新大阪まで新幹線での移動。乗車したときにはまだあまり実感が湧かなかったが、しばらくして車内に表示される次の停車駅が、広島、新神戸と変わっていくのを見て、ようやく「今から修学旅行なんだ。」と感じた。一日目に訪れたのは奈良。まず向かったのが法隆寺。しよりの作成の際に画像を見てはいたが、実物を見ると壁の色や木材の傷、その落ちついた雰囲気から画像だけでは伝わることがない、長い歴史を感じることができた。

次に向かった東大寺奈良公園では、まず金剛力士像の想像を超える大きさに驚き、それををはるかに上回る大仏の大きさに強い衝撃を受けた。奈良公園を自由に歩く鹿たちの姿もみることができ、十分すぎるほど満喫した一日を過ごすことができた。

一日目の奈良パークホテルでは、テーブルいっぱいに並んだ豪華な食事を食べ、活動で減ったお腹を満たすことができた。大浴場では、2クラスが同時に入ったこともありとても賑やかだった。一日目の疲れをいやすことができた。部屋では先生も交えて色々なことを話し、クラスメイトだけでなく先生との距離も縮めることができた気がした。

二日目、初めに向かったのは丸益西村屋。京友禅染の体験を行った。難しそうなイメージだったが、いざやってみると思ったより簡単で、きれいな色に染めることができた。次に向かった嵐山。多くの人が楽しみにしていた班による散策。私もその一人だったが、松葉杖が外れたとはいえ長時間歩き続けるのがまだ難しく、車いすに乗って散策することになった。石畳など通りにくい道も多かったが、友だちのお陰で無事、校長先生の待つ竹林の小径まで辿り着くことができた。(中略)



足を痛めた状態でもこの三日間を楽しく過ごせたのは、周りの友達や先生方、旅行会社の方々、家族の支えがあったからこそだ。たくさんの人に支えられて過ごすことができたこの三日間を、これからの糧としていきたい。

「友禅染がくれたもの」 3年2組 Yさん

修学旅行説明会で資料を見たとき、「なんでここに行くの。」と思った。それは丸益西村屋での友禅染体験である。京都に伝統的な産業があることは知っていたが、友禅染がどんなものなのかは全く知らなかった。だからといって別に興味があったわけでもなく、むしろなぜ映画村に行かないのかが疑問だった。そんな思いを抱えながら、バスに乗り込んだ。

工房では、作業の仕方を丁寧に教えてもらい、作業が始まった。やり方としては色を薄めに取り、型どおりに色をつけていく方法だった。僕はまねき猫の型にした。染めているとき、ものすごく楽しく感じた。作業になれていくと手が止まらず、たくさんの色を付けたいと思うようになり、夢中になった。体験が終わる時間が近づくと、手が早く動くようになった。完成させたい。傑作を。その思いで残り時間、作業した。

体験が終わった。楽しかった。そう思った。色を付けたまねき猫に、何度も「かわいい」と連呼した。まねき猫は五匹。超かわいい。この体験を終え、楽しいかどうかはやってみないと分からないと思えるようになった。これからはどんなことも体験し、最高でも最悪でも、楽しく活動することを目標にしたい。